

題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)

kansei hogo koma-shi nomi
更生保護

小松能美

第14号

2023年(早春号)

更生保護関係三団体のつどいを開催

第七十二回社会を明るくする運動の期間中に開催を企画した「社会を明るくする運動小松能美市町民のつどい」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていました。開催内容を見直し三月四日に小松市第一地区コミュニティセンターで、更生保護関係三団体の関係者によるつどいとして開催しました。

つどいの開催に際しオープニングでは、当保護区の元山会長が所属するオカリナ倶楽部「九谷の風」の爽快な演奏があり、暖かい春がもうすぐそこまで来ているという気持ちになり、会場を和ませていただきました。続いて令和三年度に応募された作文から県の優秀作品として受賞した小松市内の中学生の二作品が保護司の代表により朗読されました。そして、開会のあいさつの後、金沢刑務所の教誨師として被收容者と向き合っている当保護区保護司の柿原勸氏の講演を聞きました。

柿原氏は、教誨師とは更生施設に收容されている被收容者と向き合いながら、各教宗派の教義に基づき、徳性を涵養し、人間性の回復を図る働きかけを行うことであるとし、相手と通じ合い、向き合うことの重要性についてお話をしていただきました。全ての人が持っている善悪が何かのきっかけで罪を犯してしまい、悪い事をした人となる。社会から隔離された中での規律正しい生活をして、改善更生に努めている罪を犯した人を人として導くために、論ずことの難しさを知ることができました。

更生保護活動は、まだまだ保護区内の市町民には浸透していない状況にあります。保護司は、罪を犯した人の改善更生を図る保護観察と社会から犯罪を無くしていくための犯罪予防活動の二本柱で今後も活動していくこととしています。更生保護三団体が手を取り合って行政と連携して、地域のチカラで罪を犯した人を社会において温かく迎え入れて改善更生を進めて行くことが重要となっています。



優れた保護司会活動に学び続けることを大切にしたい！

「有意義だった安城保護司会との交流会」

総務部会 元 山 洋

縁あって、令和四年十一月二十八日(月)、小松市第一地区コミュニティセンターで安城保護司会との交流会が開催されました。他保護司会をお迎えしての交流会は初めてのことであり、当日までとても不安でした。結果として学ぶべきことがたくさんあり、今後の私たちの事業・活動推進に大変参考になった有意義な会となりました。とても良かったです。

「今回を機会に今後も交流を続けていきたい」とお伝えしました。

その後、それぞれ現況報告があり、安城保護司会からは、「社会を明るくする運動」期間中各中学校単位でのミニ集会の開催、地域のまつり等における青少年補導巡視活動や「薬物乱用防止」啓発活動など地域密着型活動を継続的に取り組んでいると報告がありました。また、各地域が責任もって保護司の確保にあたって現在充足率100%であるとの報告があり、先輩方の活動をしっかりと受け継ぎ、お互いのつながりを強め、さらにアイデアを生かして新しい活動に組織として取り組んでいることがわかり、とても参考になりました。

当日、午後四時からおよそ一時間にわたって、安城保護司会より二十四名、我が保護区から総務部会・各部長八名参加のもと会がもたれました。保護区会長の挨拶の中で、私の挨拶とともに

その後、質疑応答が行なわれ、報告事項をさらに深め、充実した交流会となりました。今後の視察研修の中に、他保護司会との交流を取り入れていくことが我が保護区の発展に繋がっていくことを実感した交流会でした。



令和四年度 石川県更生保護功労者 顕彰式典受彰者

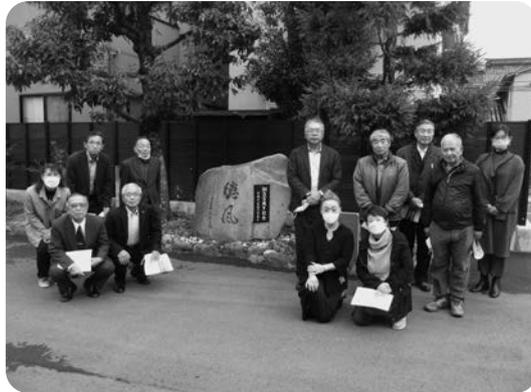
- 全国保護司連盟理事長表彰
高島 明美・徳山 知子
- 全国保護司連盟理事長表彰
(家族功労者)
元山由紀子(洋)
- 石川県知事感謝状
中田 毅
- 社明推進委員会委員長感謝状
チャリテイ作家 福田 樹峰
- 中部地方更生保護委員会委員長表彰
押野 瑞代
- 中部地方保護司連盟会長表彰
梅田 利和・北原 華蓮
福田 緑・森本 栄史
- 金沢保護観察所長表彰
井上 和代・千歩 純義
中田 桂子
- 金沢保護観察所長表彰
(更生保護法人役職員・事業協会)
元山 洋
- 金沢保護観察所長感謝状
チャリテイ作家 八十山和代
- 石川県保護司会連合会会長表彰
阿戸 梨加・山本 直樹

視察研修に参加して

研修部会 北原華蓮

三年ぶりの視察研修に行つて参りました。徳風苑「親和寮」は突然新しくなつており驚きました。ちょうど、令和四年三月に竣工したばかりのピカピカ出来立てです。寮長に懇切丁寧にお話を伺うことが出来ました。コロナ禍ということもあり、参加者を半数に分けての見学です。一番感動したのは、地域の愛です。各お部屋の入り口には県下市町の風景写真が表札のように掲げられておりました。食事は更生保護女性会のお手伝いもあり、手作りの栄養満点家庭料理です。

続いで金沢少年鑑別所では、所長のお人柄がとても暖かく、また、とても分かり易いお話に感動いたしました。高学歴のインテリジェンスでありながらも、大変庶民的であり気取らない。犯罪心理学がご専門ということですから、是非ともお越し頂きたい。老体奮い立たせて精一杯勉強させて頂きたいと思えます。研修部会長、新年度に向けて企画段取りをよろしくお願い申し上げます。



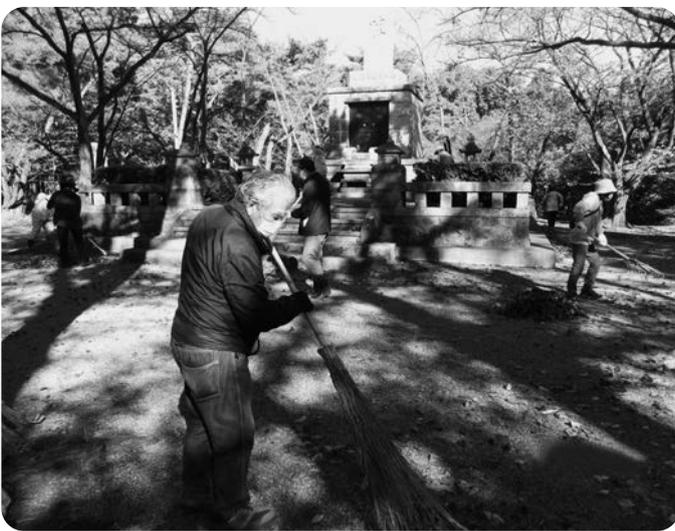
社会貢献活動を終えて

協力組織部会 俵 秀雄

昨年度はコロナウイルスの感染防止の為、全ての活動が休止の状態でしたが、今年度はコロナ禍であっても対策、工夫をすれば活動できるとのことで実施する事にしました。

その活動内容を検討してきた中、以前に実施した「海岸清掃」か「公園清掃」の方向で実施することになり、今年度は公園清掃に決定しました。次に実施場所を小松地区と能美地区を交互にということ、今年度は能美市の市民に大変親しまれている和田山史跡公園に決定しました。計画当初は保護観察対象者二名の参加を予定していましたが、最終的に参加が得られず、保護司十名のみでの活動となりました。本来の社会貢献活動とはいかなかったものの、地域に貢献できたことで参加された保護司も爽やかな汗をかくことが出来、満足できたことと思います。また、和田山史跡公園はこれまで遠くから観ているだけでしたが、今回の清掃活動で園内に入るとまるで山の中にいるようで、大変広く、そして整備されているのに驚きました。清掃活動も約二時間程度で終了しましたが、休憩時に参加者の作業風景等と全員での集合写真を撮り解散しました。

参加者の皆さん、本当にお疲れさまでした。



キッズフェスタに参加して

犯罪予防活動部会 徳山知子



令和四年九月二十三日(金・祝)北
部児童センター主催のもと、小松市
民センターでキッズフェスタ2022
が開催されました。

保護司会からは十二名の参加があり、受付で杜明チラシ・グッズを配布し、「わくわく広場」の景品提供の協力、手作り遊びを担当しました。「竹とんぼ」「ぶんぶんゴマ」「板ゴマ」「どんぐりゴマ」「くるくるやじろべえ」と五種の昔遊びの中で、子供たちは、最初はそーっと覗いてい

ましたが、恐る恐る作り始めると次第に夢中になって取り組んでいました。

お絵かきホゴちゃんコーナーでは、五名の小松地区更生保護女性会の皆様に担当していただき、子供たちは色々なホゴちゃんを楽しんで描いていました。

コロナ禍で二年間休止し、規模を縮小して開催したにもかかわらず、六百名もの親子連れが参加し、楽しいひと時を過ごしていただきました。

作陶への思い



チャリティ陶芸作家
三代 浅蔵 五十吉

九谷焼の置物の素地を作る窯元で自ら形を作ることが出来る環境があり、その作業工程の中で削ったり粘土を盛ったりして絵を描き作品を作っていく技法を追求してきました。形を考えながら、同時に文様や絵のデザインも作り上げていく窯元だから出来る贅沢な技法なのかもしれません。

粘土は指先の感覚で如何様にも表現できる所が面白いと思っています。

また九谷五彩に加え、先代から引き継がれた深香陶窯にしかない絵具があります。守るだけでなく新しい色も試しています。作品造りも色の探求もこれで完成と言うものは無く、ずっと続けていくものだと思います。焼成後の窯出しは毎回緊張します。

私の作品に対して見てくれる人、共感してくれる人がいれば嬉しい。自分がかかりと納得のいくものを作っていくだけのことだと思いい作陶を続けています。



ホームページを見よう

広報部会 新川 賢

小松能美保護区保護司会のホームページは六年前に開設されましたが、意外と見ていない方が多いのではないのでしょうか。私もその一人でしたが、友人から「保護司って何をする人や」と聞かれたもの、うまく答えられずに開いたのがきっかけでした。

ホームページでは、更生保護について分かりやすく説明し、小松能美保護区保護司会・保護司が実際に行っている活動を紹介しています。作成、更新は事務局が担当していますが、その目的とするところは一般の方々に保護司の果たすべき役割を知ってもらうことです。これが更生保護、犯罪予防に対する理解と協力を得ることに繋がるのだと思います。ホームページを閲覧し保護司になった方もいると聞いています。立ち直りのために地域のチカラが重要な今、ホームページの活用がますます重要になってきています。また、ホームページを利用して保護司会と各保護司、保護司同士の情報の共有もできます。各部会の活動を知るための重要なツールでもあります。広報部会でも楽しく見ていただけるよう協力しています。ご意見、ご感想をお寄せください。

定例研修

第一期

日時 令和四年六月十六日(木)

午後一時三十分

場所 小松市第一地区コミュニティセンター

テーマ 「保護司専用ホームページ」

講師 金沢保護観察所

窪田主任保護観察官

本研修では、令和三年度から運用が始まった保護司専用ホームページ「H@」（はあと）について理解を深めるとともに、各保護司が今後の活用について検討する機会を頂きました。

保護司にもICT化の波が押し寄せてきました。保護司活動のICT化については様々な意見があるかと思えます。「とてもできそうにない、できれば対応したくない、現状のままでよい」など不安を抱えている方も多いと思われる。今後、ICT機器を使いこなすためにより細やかな研修が必要になると感じました。

一方では、前向きにチャレンジしている保護司もいます。ICT機器を使いこなせるようになるとても便利であること、保護司活動の省力化・効率化にもつながります。保護司専

用ホームページ「H@」（はあと）で得られたスキルは、様々な場面で生きてくると思われます。

今回の研修では、保護司の希望に応じてこれまで通り紙媒体での報告か、ホームページでの報告かを自由に選択できるということでした。

参加保護司 三十二名

第二期

日時 令和四年九月十五日(木)

午後一時三十分

場所 寺井地区公民館

テーマ 「少年法の改正について
(更生保護関係)」

講師 金沢保護観察所

窪田主任保護観察官

本研修では、改正少年法の主なポイントと、それに伴う更生保護法の改正の概要について学びました。

令和三年五月二十日、少年法等の一部を改正する法律が成立し、令和四年四月一日から施行されました。選挙権年齢や民法の成年年齢が二十歳から十八歳に引き下げられたことにより、十八・十九歳の者は社会において責任ある主体として役割を果たしていく立場になりました。

今回の少年法改正は、十八・十九歳の者が罪を犯した場合に、その立

場に応じた取扱いとするため「特定少年」として、十七歳以下の少年とは異なる特例を定めています。

また、少年法において、特定少年に対する保護観察処分等について新たな規律が設けられることに伴い、保護観察処遇の具体的な内容、手続等を定める更生保護法についても、併せて改正されたことを勉強しました。

参加保護司 二十九名

第三期

日時 令和四年十二月十四日(水)

午後一時三十分

場所 小松市第一地区コミュニティセンター

テーマ 「面接技法について」

講師 金沢保護観察所

窪田主任保護観察官

対象者と保護司を繋ぐ唯一の接触手段である「面接」。保護観察の過程で最も重要な手段となっています。より良い効果的な面接をするために、人とのかわりについて基本的な理論や技法を学びました。

そこで今回の研修で、窪田主任官の講義とともに、面接場面をイメージしながらグループごとにロールプレイ(役割演技)を行いました。三人一組になり、保護司役、保護観察対象者役、観察者に分かれ、打合せ無しで

実際に演技を行い、その感想を話し合いました。会話のテクニックである①うながし技法(傾聴)②繰り返し技法 ③質問の技法 ④言い換えの技法 ⑤共感の技法 ⑥自己開示(個人的な見解や経験などを相手に伝えること)など、どのグループも勉強の成果が現れていました。

その後、グループごとに発表を行い、時間いっぱい盛り上がりました。最後に、面接時の座り方(対象者との位置関係)によっても印象が変わってくることを学びました。



教育現場からの声



小松市立中海中学校 校長 沖田 尚

「地域に支えられている実感」

小松市内では、市内中学校十校が毎年持ち回りで、歌舞伎「勧進帳」を上演しています。今年度は、中海中学校が当番校でした。本校は規模が小さいため、二、三年生

全員がスタッフとなり、弁慶をはじめとする役者を支えました。歌舞伎独特のメイクや着付け・パンフレット・広報なども全て生徒が担当します。一年生は、会場の雰囲気作りのために幟旗を制作しました。まさに、中海中学校の生徒全員で作上げる「勧進帳」でした。夏休み初日から稽古を始めたのですが、八月には未曾有の豪雨災害が中海地区をおそい、稽古中断を余儀なくされました。また、コ

ロナ感染拡大もあり、公演当日まで開演できるのかどうか不安でいっぱいでした。そんな中、バックアップして下さったのが、保護者をはじめとした地域の方でした。着付け係の生徒の指導、芸術劇場うららの舞台作り、生徒への差し入れ、学校や教員への優しい声掛けなど、不安ばかり広がる毎日の中で、地域の方の力をとても心強く感じました。地域に支えられていることを実感できました。

小松支部だより

小松支部には一時、四十五名の保護司がいたが、現在は三十九名しか在籍していない。しかも来年度には四名が定年退任になる。保護司候補者の確保が喫緊の課題となっている。保護観察対象者は少しずつ減っているが、犯罪予防活動には多くの保護司が必要である。コロナも収まりつつあるので、分區会でつながりを深め、情報交換していきたい。孤独な保護司活動を支えるのは仲間である。

能美支部だより

能美ロータリークラブから能美支部の保護司十名に「職業奉仕賞」が贈呈されました。地域に寄り添い尽

力している支援団体を表彰する目的で設置された表彰であり、このほど能美ロータリークラブから能美市在住の保護司で五年以上の活動をしている七名と川北町在住の保護司三名が対象となりました。一月二十七日に開催された能美ロータリークラブ第2442回の例会に招待され、例会の中で能美支部の保護司十名が紹介され、それぞれが能美ロータリークラブ会長の北出秀樹様から賞状と記念品をいただきました。受賞後、元山洋支部長が代表して感謝の言葉を述べ、引き続き中川和信保護司が保護司の任務や保護司会の取り組みについて報告する機会をいただきました。能美ロータリークラブの厳粛な例会の席で、更生保護について報告が

できたことは、非行防止や犯罪をしたものの立ち直りを支えるために地域の理解が必要であり、再犯防止が最重要課題となつてきていることから良い機会となりました。受賞者一同「感謝」の一言でありました。これからも地域に根差した活動を、多くの方々の協力と地域のチカラを得ながら地道に進めいくことを強く感じました。



小松能美保護区保護観察件数等 / 2月1日現在の増減比較数

種別	単位(件)				
	1号 家庭裁判所 保護観察 処分を受けた 者	2号 少年院から 仮退院を許 された者	3号 刑務所から 仮出所を許 された者	4号 刑事裁判所 で刑の執行を 猶予され保 護観察に付 された者	生活環境調整 保護観察前に 身元引受け 人及び居住 環境の適否調 査と調整作業
令和4年	4	0	1	5	16
令和5年	7	0	1	5	18
増減	3	0	0	0	2

最近の保護観察件数の動向

保護観察事件、生活環境調整事件ともに増加傾向にある。保護観察対象者に女性が1名いるだけで、保護観察・生活環境調整ともほとんど男性が占めている。

編集後記

公の場でのマスク着用が議論されるようになり、コロナの長いトンネルもようやく出口の光が見えてきたのでしうか。収束が待たれます。今年度後半は部会活動に加え、更生保護関係三団体の集いや安城保護司会との交流など充実した活動を進めることができました。次年度へのステップにしたいものです。今号も皆様のご協力により発行することができました。御礼申し上げます。新川 賢

※お問い合わせ 事務局
TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108
E-mail hogoshikai@aquaplala.or.jp
URL http://hogoshikai.org

発行日 令和5年3月20日
発行所 小松能美保護区保護司会 広報部会
印刷 マルト株式会社